

中度と軽度の知的障害者のテレビ視聴に関する調査

A survey on Television Viewing of People with Mild or Moderate Intellectual Disabilities

藤澤 和子
FUJISAWA Kazuko

要 旨

テレビ放送は、現在社会では、欠かすことができない情報獲得と娯楽の手段である。本研究では、中・軽度の知的障害者のテレビ番組の視聴調査を行い、テレビ放送を通じた情報アクセシビリティと文化的な享受の実態を明らかにすることを目的とする。知的障害者60名を対象に、最近の1週間で見たテレビ番組、好きなテレビ番組、嫌いなテレビ番組、見たいジャンル及びテレビ番組の4項目について、自記式質問紙を用いて、本人への聞き取り調査を行った。ジャンル別に分析した結果、見た番組と好きな番組の両方で、「バラエティ」「アニメ」が上位1,2位で60%以上を占めた。嫌いな番組と見たい番組の両方で、「ドラマ」が1位であった。見た、好き、見たい番組の3項目について、「ニュース」は低い回答数であった。知的障害者は、笑いや面白さを得るために視聴する人が多く、情報を得るための視聴は少ないことが明らかになった。今後、知的障害者がテレビ番組によって、情報や文化的な享受を得るためには、抽象的な事柄の理解が難しい知的障害者に、自分の生活と関わる具体的な事柄として理解できるようにわかりやすく情報を伝えるニュース番組と、展開がわかりやすく、暴力的な描写がないドラマの制作等が求められる。

Abstract

Television programs have now become an essential medium to access information and a source of entertainment in the present society. This study conducted a TV viewing survey involving people with mild or moderate intellectual disabilities, in order to investigate whether they obtain the necessary information and entertainment from TV programs. Based on the obtained data, we examined the future of TV shows that are appropriate for people with mild or moderate intellectual disabilities.

In 60 people with intellectual disabilities, we investigated the types of TV shows that they viewed in the last one week, those they like and do not like, and those they desire to watch. As the results, concerning the questions on the types of TV shows they like and recently viewed, "entertainment" and "animation" programs accounted for the most, at more than 60%. "Dramas" was the most common answer to questions about both the types of TV shows that they do not like as well as those they desire to watch. The number of subjects who liked, desired to watch, or recently viewed "news programs" was low. The results showed that people with intellectual disabilities are likely to watch TV to entertain themselves; however, they are not likely to watch it to access information. In order for people with intellectual disabilities to access information and enjoy culture through TV, it is necessary to produce news programs that are easy to understand and dramas that are simple and non-violent.

キーワード：知的障害者 テレビ視聴 情報アクセシビリティ 文化的な享受

keywords：People with intellectual disabilities, TV viewing, information accessibility, enjoying culture

I. はじめに

テレビ放送は、現在社会では、欠かすことができない情報獲得と娯楽の手段である。毎日の社会の動きの情報を提供するニュース番組、オリンピックや野球の試合の経過と結果を知らせるスポーツ番組、笑いや音楽やアニメーションを届けるバラエティ、歌番組、アニメーション等、多くの人が、日々の生活で、テレビ番組を視聴して、必要な情報や楽しみを得ている。

では、知的障害者は、テレビ番組を通して、情報や楽しみを得ることができているだろうか。

平成25年12月に日本でも批准された障害者権利条約では、第21条で、障害者は他の者と同等に表現及び意見の自由並びに情報の利用の機会を得ること、第30条で、文化的な生活やレクリエーション、余暇及びスポーツへの参加の権利を認めるものと、規定されている。そのために、マスメディアは障害者がアクセスしやすい形

態や方法での情報や文化的な享受を提供することが提言されている。テレビ放送のアクセシビリティを保障する取り組みについては、現在までに聴覚障害者の手話や字幕入り放送、視覚障害者の音声解説入り放送が行われてきた。字幕放送については、総放送時間に占める割合が、NHK（総合）で75.9%、NHK（教育）で62.7%、在京キー5局で57.5%となり、かなりの番組で字幕放送が視聴できるようになっている（2014、総務省）。手話放送については、総放送時間に占める割合は、NHK（総合）で0.2%、NHK（教育）で2.6%、在京キー5局で0.1%と低調である。解説放送については、NHK（総合）で10.0%、NHK（教育）で13.7%、在京キー5局で2.3%である。また、1998年から手話と字幕の番組「目で聴くテレビ」が、CS障害者放送統一機構によって、放送されている。このように聴覚、視覚障害者には、今までに障害特性に対応したアクセシビリティを目指したテレビ放送が行われてきた。一方、知的障害者に対しては、ほとんど無策だったと言わざるをえない現状がある。テレビ放送が利用しにくいことを自覚したり、積極的に要求できない人が多いために、本人たちのニーズがわからないことが、アクセシビリティ向上のための対策を遅らせる一因だと考えられる。知的障害者にわかりやすく楽しめるテレビ番組を検討するためには、彼らが今のテレビ番組をどのように視聴し、どのように感じているのかという実態を把握する必要がある。

2007年にNHK放送文化研究所によって実施された「知的障害のある人へのテレビ視聴実態調査」によると、460人の有効回答の8割以上の人々が毎日テレビを見ることが報告されている。近年、若者を中心にテレビ視聴は低下しつつあるが、知的障害者にとっては、娯楽と情報を入手するために必要なものである。

そこで、本研究では、本人の意見を直接調査可能な中重度と軽度の知的障害者のテレビ番組の視聴調査を実施する。見た、好き、嫌い、見たい番組を調査し、テレビによる情報アクセシビリティと文化的享受の実態を明らかにすることを目的とする。その結果を参考に、中重度と軽度の知的障害者に配慮したテレビ番組のあり方について検討する。

II. 調査

1. 方法

知的障害が中重度と軽度の知的障害者約60名を対象に、テレビ番組視聴の実態について調査した。調査は、調査者1名に対して対象者1名の場で、自記式質問紙を渡し、口頭で質問した。記入できる人には、本人の記入を求め、難しい人には、調査者が聞き取った通りに記入した。

対象者の確保については、全国手をつなぐ育成会連合会大阪支部に調査を依頼した。就労されている軽度の方

が主に参加されている本人の会と、支援センターに協力者を募った。その際、調査の内容と目的をわかりやすいことばで説明し、個人を特定する情報は公表しないこと、いつでもやめることができることを伝えた。平成27年7月から平成28年1月の期間で実施した。

質問紙の内容については、基本的属性として、年齢、障害名、療育手帳等を質問した。テレビ番組の視聴の実態については、①最近の1週間で見たテレビ番組、②好きなテレビ番組の有無、あれば番組名と好きな理由、③嫌いなテレビ番組の有無、あれば番組名と嫌いな理由、④どんなジャンル及び番組が見たいかの4項目を質問した。複数回答を可とした。

2. 結果

(1) 対象者の基本属性

対象者は、療育手帳B1、B2を取得している18歳～56歳の60名、平均年齢35.9歳であった。対象者の全員が、企業就労かデイセンターへ通勤している。年齢区分別数を表1に示す。

表1 対象者の年齢区分別数

年齢区分	人数
10～19歳	4
20～29歳	14
30～39歳	13
40～49歳	25
50～59歳	4
合計	60

(2) 最近の1週間で見たテレビ番組

回答者は、60名中42名（70%）、全回答数は、192であった。ジャンルごとの回答数と回答のあった番組を表2に示す。表2～5のテレビ番組には、ジャンル名を答えるなどの回答は表記せず、番組名やそれに類する名称の回答だけを挙げた。（ ）の数字は回答数を示し、(1)は非表示とした。

ジャンル別では、「バラエティ」が81あり、全回答数の42.2%であった。次は「アニメ」が41で、21.4%であった。「バラエティ」「アニメ」が上位1、2位で63.5%を占める結果となった。次いで「ドラマ」「音楽番組」、「ニュース」「スポーツ」と続いた。

視聴された番組をみると、バラエティでは、月～金の帯で放送される朝の情報バラエティ番組『めざましテレビ』が回答数9で1位となり、『おはよう朝日です』が3位、『スッキリ!!』が5位、他にも『モーニングバード』『おはようコール』があげられ、朝の帯の情報バラエティ番組は、回答数が多い結果となった。他には『VS嵐』『嵐

中度と軽度の知的障害者のテレビ視聴に関する調査

にしがれ』が2位, 3位になり, 嵐の番組も人気があった。対象者があげたバラエティ番組名は54種類あり, 様々な番組が視聴されていた。

アニメでは, 『サザエさん』『ちびまる子ちゃん』『ドラえもん』『ポケモン』が上位3位だった。ドラマでは『ま

れ』『あさが来た』の帯で放送される番組が回答数3で1位だった。音楽番組では『紅白歌合戦』『Mステ』が3で1位だった。その他では, 『釣り』『映画』という回答があった。

表2 最近の1週間で見たテレビ番組

ジャンル	回答数	テレビ番組 (回答数)
ニュース	11	ニュースゼロ (帯), NHK9時ニュース (帯), 報道ステーション (帯)
音楽番組	19	紅白歌合戦 (3), Mステ (3), ミュージックフェア, 歌謡ステージ, うたばん
スポーツ	11	野球中継 (5), サッカー中継, すもう
バラエティ	81	めざましテレビ (帯) (9), VS嵐 (6), おはよう朝日です (帯) (5), 嵐にしやがれ (5), スッキリ!! (帯) (4), スカッとジャパン (4), 志村動物園 (4), ネプリーグ (3), スマスマ (3), 鉄腕ダッシュ (3), さんまのまんま (3), 探偵ナイトスクープ (2), ヒルナンデス (2), みんなの家庭の医学 (2), 世界の果てまでイッテQ (2), 大改造劇的ビフォーアフター (2), 吉本新喜劇 (2), モーニングバード (帯), おはようコール (帯), サンデーモーニング, よ〜いドンサンデー, 踊る!さんま御殿!, ダウンタウンDX, おもいでぼろぼろ, ロンドンハーツ, 今ちゃんの実は, アメトーク, とんねるずのみなさんのおかげでした, めちゃ×2イケてるッ!, トキオと嵐, VSアチススペシャル, ガキの使いやあらへんで!, ミヤネ屋, ボンビーガール, モニタリング, Aスタジオ, 世界一受けたい授業, 家族に乾杯, ケンミンショー, プレバト!!!, おじゃMAP, 徹子の部屋 (帯), ごぶごぶ, 駆け込みドクター, ロンドンハーツ, ウェイクアップ, やべっちFC, 正義のたかじん, そこまで言って委員会, ほんまでっか, 世界不思議発見, 魔法のキッチン, どんど晴れ
ドラマ	25	まれ (帯) (3), あさが来た (帯), (3) 警視庁捜査一課, 科捜研の女, 怪盗山猫, 月9ドラマ, 花燃ゆ, 真田丸
アニメ	41	サザエさん (6), ちびまるこちゃん (4), ドラえもん (3), ポケモン (3), ドラゴンボール (2), ワンピース (2), 名探偵コナン (2), 妖怪ウォッチ (2), クレヨンしんちゃん (2), ゲゲゲの鬼太郎, キンタマ, ウルトラマン, ルパン3世, ナルト, 天空の城ラピュタ, 仮面ライダー, アイカツ, プリパラ, 境界のリンネ, ベイビーステップ, たまごっち, たまともだいしゅーGO, セーラームーン
ギャンブル	0	
コマーシャル	0	
ドキュメント	1	
旅	0	
教養	0	
子ども番組	0	
料理	1	
その他	2	釣り, 映画

(3) 好きなテレビ番組

回答者は, 60名中57名 (95%), 全回答数は138であった。ジャンルごとの回答数と番組を表3に示す。

ジャンル別では, 「アニメ」が50あり, 全回答数の36.2%であった。次は「バラエティ」が34で, 24.6%であった。「アニメ」「バラエティ」が上位1, 2位で60.9%を占める結果となった。次いで「ドラマ」「スポーツ」「音楽番組」「ニュース」と続いた。視聴された番組

名をみると, 好まれるアニメは, 『ゲゲゲの鬼太郎』『キンタマ』『ルパン3世』『ナルト』を除いて見ている番組と重なっていた。

バラエティでは, 見た番組名で回答数が多かった朝の帯で放映される『めざましテレビ』等の情報バラエティ番組は, 好きな番組には入っていなかった。『クイズ番組』が5で最も多かった。

ドラマでは, 具体的な番組名ではないが, 『韓国ドラマ』

表3 好きなテレビ番組

ジャンル	回答数	テレビ番組(回答数)
ニュース	3	ニュースゼロ
音楽番組	11	Mステ (3), ミュージックジャパン, AKB48ショー
スポーツ	13	野球中継 (8) すもう (2), 駅伝
バラエティ	34	クイズ (5), スカッとジャパン (2), 吉本新喜劇 (2), ケンミンショー (2), 新婚さんいらっしゃい (2), アタック25 (2), VS嵐 (2), 笑点, 探偵ナイトスクープ, イッテQ, SMAP×SMAP, おじゃMAP, スマステーション, キスマイの番組, 志村動物園, みんなの家庭の医学, くりいむクイズ, ミラクル9, ダウンタウンDX, さんまのまんま, Qさま, ほんまでっか
ドラマ	25	韓国ドラマ (3), 恋愛ドラマ (2), 時代劇 (2), 花燃ゆ (2), まれ (2), 土曜ワイド劇場 (2), 朝ドラ (2), サスペンス, 大河ドラマ, ヤメゴク, アイカツ, 十津川警部, 天皇の料理番
アニメ	50	名探偵コナン (5), ドラゴンボール (4), ワンピース (4), 仮面ライダー (3), ニンニンジャー (2), プリパラ (2), テニスの王子様 (2), ポケモン (2), マシュマロ通信, 境界のリンネ, 妖怪ウォッチ, アルスラーン戦記, ベイブーステップ, たまごっち たまともだいしゅーGO, ドラえもん, クレヨンしんちゃん, ちびまる子ちゃん, サザエさん, ウルトラマン, プリキュア, モヤモヤサマーズ2, トムとジェリー, カードバトル関係, トライブクルクル, セーラームーン, プリキュア, 天才バカボン
ギャンブル	1	競馬中継
コマーシャル	0	
ドキュメント	1	
旅	0	
教養	0	
子ども番組	0	
料理	0	
その他	0	

が3、『恋愛ドラマ』が2、『時代劇』が2、『朝ドラ』が2、『サスペンス』『大河ドラマ』が各1の回答であった。

(4) 嫌いなテレビ番組

回答者は、60名中23名(38.3%), 回答数は33であった。ジャンルごとの回答数と番組を表4に示す。

ジャンル別には、「ドラマ」が10あり、全回答数の30.3%であった。次いで「バラエティ」「その他」「ギャンブル」「ニュース」という順位となった。

番組ではないので表4には表示していないが、嫌いな

ドラマで、「暴力的ドラマ」が2あった。ドラマが嫌いな理由に「ストーリーがわからないものは難しい」という意見があった。

その他では、「討論番組」「政治」「テロップ過剰演出」「意味や内容がわからない、おなじことを何度も言っているのもあるのでつまらなくなる」という意見があった。国会中継が嫌いという理由は「わからない」、ニュースでは「上村君の殺害ニュースがいや」「号泣している議員がいや」という意見があった。

表4 嫌いなテレビ番組

ジャンル	回答数	テレビ番組(回答数)
ニュース	3	
音楽番組	1	
スポーツ	2	野球中継
バラエティ	6	家庭の医学

中度と軽度の知的障害者のテレビ視聴に関する調査

ドラマ	10	時代劇 (3), 韓国ドラマ
アニメ	0	
ギャンブル	3	競馬中継(2)
コマーシャル	2	
ドキュメント	1	
旅	0	
教養	0	
子ども番組	0	
料理	0	
その他	5	国会中継

(5) 見たいテレビ番組

回答者は、60名中47名(78.3%), 回答数は102であった。ジャンルごとの回答数と番組を表5に示す。見たいテレビ番組では、ジャンル名での回答が多かったため番組名の表示は少ない。ジャンル別には、「ドラマ」が24で23.5%あり、次いで「バラエティ」「スポーツ」「音楽番組」「旅」「ニュース」「ドキュメント」という順位となっ

た。

最も回答数が多いドラマでは、『時代劇』『恋愛ドラマ』が2, 『アクションドラマ』『サスペンス』『推理ドラマ』『特撮ヒーローのドラマ』『歴史ドラマ』『刑事ドラマ』が各1であった。教養番組では、『スカンジナビアの社会歴史公共サービス』『福祉国家の特集制度』が各1あった。

表5 見たいテレビ番組

ジャンル	回答数	テレビ番組(回答数)
ニュース	7	
音楽番組	13	
スポーツ	14	野球中継, ボウリング, アイスホッケー
バラエティ	19	
ドラマ	24	時代劇(2), 恋愛ドラマ(2), アクションドラマ, サスペンス, 推理ドラマ, 特撮ヒーローのドラマ, 歴史ドラマ, 刑事ドラマ
アニメ	4	
ギャンブル	0	
コマーシャル	0	
ドキュメント	5	賢者の選択
旅	9	
教養	4	スカンジナビアの社会歴史公共サービス, 福祉国家の特集制度
子ども番組	0	
料理	3	
その他	0	

(6) 各項目の回答数

最近の1週間で見た番組, 好きな番組, 嫌いな番組, 見たい番組の各項目について, ジャンルごとの回答数を図1に示す。

4項目すべてに回答があったのは、「ニュース」「音楽番組」「スポーツ」「バラエティ」「ドラマ」「ドキュメント」の6のジャンルであった。3項目で回答があったの

は、「アニメ」であり, 2項目は「料理」「ギャンブル」「その他」, 1項目は「コマーシャル」「旅」「教養」であった。子ども番組にはどの項目にも回答がなかった。

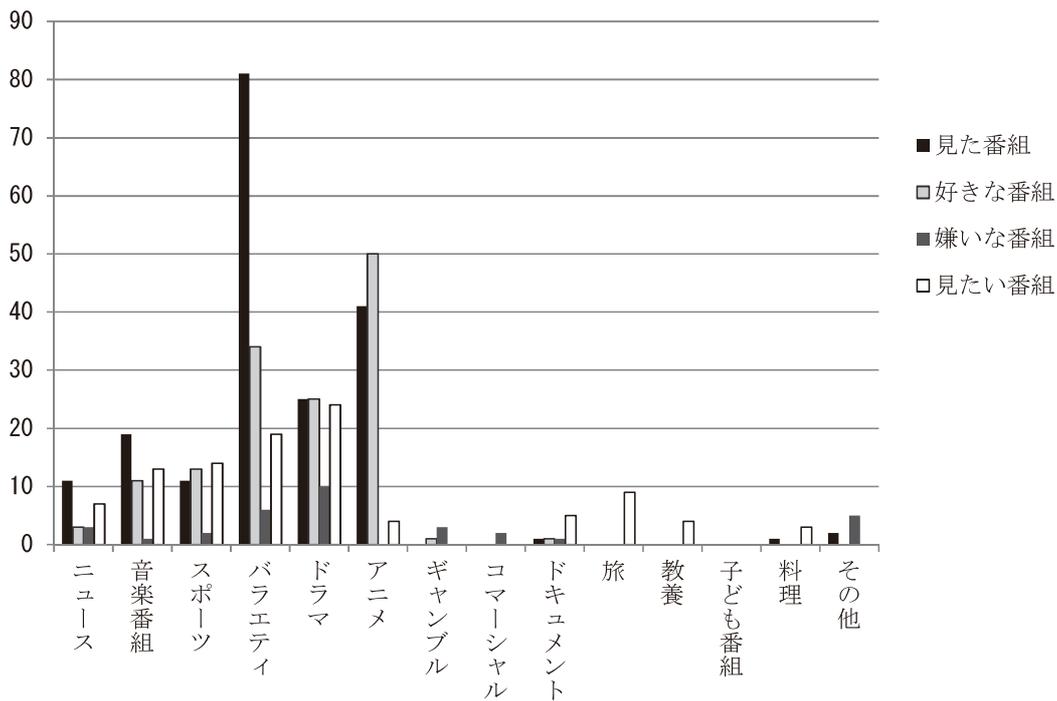


図1. 最近の1週間で見た番組, 好きな番組, 嫌いな番組, 見たい番組のジャンルごとの回答数の比較

3. 考察

(1) テレビ視聴の実態からの考察

療育手帳B1, B2を持つ中度から軽度の知的障害者のテレビ視聴の実態について調査した。項目による回答人数と回答数は、見た番組が42人で192, 好きな番組が57人で138, 見たい番組が47人で102だったのに比べ、嫌いな番組は23人で33と少なかった。嫌いな番組は見えていないために番組名をあげる人が少なかったのではないと思われる。

4項目合わせて回答数が多かった「ニュース」「音楽番組」「スポーツ」「バラエティ」「ドラマ」「アニメ」が、中度と軽度の知的障害者にとって関心が高いジャンルだと考えられる。特に、見た番組と好きな番組の両方で、「バラエティ」「アニメ」が上位1, 2位で60%以上を占め、人気があることが示された。「アニメ」は好きな番組の1位であることに加えて、嫌いな番組の回答数が0であり、最も好まれているジャンルであるといえる。見た番組としてバラエティの番組名は54種類挙がり、様々なものが視聴されていた。アニメでは、『サザエさん』『ちびまる子ちゃん』『ドラえもん』『ポケモン』と、昔から続いている長寿番組が、見た番組として上位3位に選ばれていた。キャラクターへのなじみと毎回同じような展開であることがわかりやすさと安心感を与えるのではないだろうか。

嫌いな番組と見たい番組で「ドラマ」が、どちらも1位であった。見たい番組として「時代劇」「恋愛ドラマ」

「アクションドラマ」「サスペンス」「推理」「特撮ヒーロー」「歴史ドラマ」「刑事ドラマ」といろいろなドラマが挙げられていた。内容が多様であることがドラマの特徴なので、嫌いなドラマもあるが、見たいドラマも多く挙げられ、ドラマへの期待の高さが示されていた。また、嫌われるドラマとして暴力的という回答があり、暴力的な描写への配慮が求められる。

関心が高いと考えられる6ジャンルの中で、見た、好き、見たい番組の3項目について、「ニュース」は低い回答数であった。特に好きな番組では3の回答数しかなかった。「上村君の殺害ニュースがいや」「号泣している議員がいや」という意見があり、残酷で感情的なニュースが苦手な人がいた。

嫌いな番組のその他で、「討論番組」「政治」「テロップ過剰演出」「意味や内容がわからない」「国会中継」が挙がっていた。「国会中継」が嫌いという理由は「わからない」ということであり、「討論番組」「政治」についても、わかりにくさが影響しているのではないと思われる。

見たジャンルにはなかった「旅」「教養」が見たいジャンルとして挙げられており、いろいろなテレビ番組への興味の広がりを感じられた。また「子ども番組」に回答がなかったのは、今回の調査対象が18歳以上の就労者とディケアセンター通勤者であったことが影響したと思われる。

(2) 今後のテレビ番組制作について

2006年に行われた視覚障害者向け解説放送開発に関する調査（社会福祉法人日本盲人会連合）において、584名の視覚障害者を対象とした結果では、よく視聴しているテレビ番組として、1位でニュース・報道番組と回答した人が170名（93.9%）を占め、次いで2位でドラマが115名（63.5%）、3位でドキュメンタリーが100名（55.2%）と続いた。知的障害者の多くが視聴していたバラエティは40名（22.1%）で10位、アニメは33名（18.2%）11位で最下位だった。また、優先的に解説放送をつけてほしい番組も、ニュース・報道番組が63.7%で1位であった。対象人数の差はあるが、知的障害者と視覚障害者が視聴しているテレビ番組の傾向が全く異なり、視覚障害者は、ニュースや報道番組から情報を得るためにテレビ番組を視聴し、知的障害者は、バラエティやアニメから笑いや面白さを得るために視聴することが示された。

今後、知的障害者のテレビ放送による情報アクセシビリティと文化的享受を向上させるためには、ニュースとドラマの視聴を増やしていくことが必要だと考えられる。テレビニュースは、活字で提供される新聞やWEBニュースよりも視聴しやすいと思われるが、それでも見ている人、好む人は少なかった。彼らが情報の多くを得ないで生活している実態と、ニュース内容が彼らにわかりやすく提供されていない状況を示していると考えられる。抽象的な事柄の理解が難しい知的障害者に、情報をわかりやすく伝え、自分の生活と関わる具体的な事柄としてとらえていけるようなニュース番組のあり方が求められる。また、ドラマについては、展開がわかりやすく、暴力的な描写がないものの制作が求められる。

彼らにわかりやすく伝えることができるテレビ番組を考えるにあたり、知的障害者に情報提供をするための方法をまとめた「わかりやすい情報提供のガイドライン」（2015）が参考になると思われる。ガイドラインによると、障害特性に配慮したテレビ放送の基本的な話し方について、具体的に話す、複雑な表現をさける、構成をはっきりさせる、ゆっくり話す、年齢に相応しいことばを使うことに留意するとわかりやすいと考えられる。さらに、ニュース番組では、話しことばだけに頼らず、視覚イメージ情報として、動画、図や絵、写真、模型などを併用する。視覚障害者や聴覚障害者に使用する音声解説や字幕も、知的障害者向けにすることで、情報を補うために有効ではないかと考えられる。広瀬（2014）は、高齢化にともなって耳や目が不自由になった人が増えており、聴覚、視覚障害者以外でも字幕放送や音声解説放送を必要とする人が増えていると述べている。

2011年には、聴覚障害者、視覚障害者、知的障害者などの人が、字幕、手話、音声解説、ピクトグラム等のツ

ルを付与した共通コンテンツをストリーミング配信、オンデマンド配信する会員ネットワーク「スコラネット（スキルアップ・コンテンツ・ライブラリー）」の実践研究が行われている。「目で聴くテレビ」の放送で使用された手話や字幕の方法が、聴覚障害者の情報提供等に有効であった（梅田，2011）ことなどを踏まえて、知的障害者の障害特性に合う具体的で有効な方策を検討することが、急務な課題である。

引用文献

- 総務省「平成26年度の字幕放送等の実績」2015
NHK放送文化研究所「知的障害のある人へのテレビ視聴実態調査」2007
全国手をつなぐ育成会連合会「知的障害のある人の合理的配慮」検討協議会報告書「わかりやすい情報提供のガイドライン」2015
社会福祉法人日本盲人会連合「視覚障害者向け解説放送開発に関する調査・研究事業 平成18年度報告書」2007
広瀬洋子「放送メディアのアクセシビリティ」広瀬洋子、関根千佳編集：『情報社会のユニバーサルデザイン』放送大学教育振興会 東京 2014 pp.211
特定非営利活動法人シーエス障害者放送統一機構「情報障害者と支援者の学びの場づくり事業―バリアフリーコンテンツ共有で遊んで学んで支えあって―」平成23年度独立行政法人福祉医療機構社会福祉振興助成事業2012
梅田ひろ子「目で聞くテレビがめざす放送バリアフリー」.金山勉、津田正夫編集：『ネット時代のパブリック・アクセス』世界思想社 東京 2011 pp.221

付 記

本稿は、平成26年度公益財団法人放送文化基金 助成金事業「知的障害者を対象としたテレビ放送に関する調査・研究報告書」の成果の一部を基として、加筆・修正したものである。

謝 辞

調査にあたって、全国手をつなぐ育成会連合会大阪支部の協力を得たことに謝意を表す。

